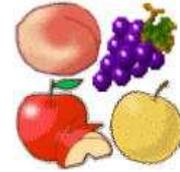




平成24年度 果樹情報 第4号

(平成24年5月2日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (4月下旬：果樹研究所)

4月下旬の平均気温は5半旬が12.2℃で平年より0.7℃低く、6半旬が15.5℃で平年より1.7℃高い状況でした。この期間の降水量は20.0mmで平年の72%でした。

2 土壌の水分状況 (4月30日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培リンゴ園) は、深さ20cmが1.9、深さ40cmが1.6、深さ60cmが1.7で、適湿条件の範囲です。

3 発育状況 (果樹研究所)

- (1) モモの「あかつき」の満開は、4月29日で平年より8日遅く、「ゆうぞら」の満開は4月28日で平年より7日遅い状況でした。
- (2) ナシ「幸水」の開花始めは4月28日で平年より5日遅く、「豊水」の開花始めは4月25日で平年より6日遅い状況でした。「幸水」の満開は5月1日で平年より4日遅く、「豊水」の満開は4月29日で平年より5日遅い状況でした。
- (3) リンゴ「つがる」の開花始めは5月1日で平年より5日遅く、「ふじ」の開花始めは5月1日で平年より4日遅い状況でした。
- (4) オウトウ「佐藤錦」の満開は4月29日で平年より4日遅い状況でした。
- (5) ブドウ「巨峰」の発芽は、4月28日で平年より9日遅い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	3月31日	3月26日	3月28日	—	—	—
	ゆうぞら	3月30日	3月27日	3月29日	—	—	—
ナシ	幸水	4月10日	4月3日	4月8日	4月18日	4月17日	4月16日
	豊水	4月9日	3月31日	4月7日	4月16日	4月12日	4月13日
リンゴ	つがる	4月1日	3月27日	3月30日	4月14日	4月11日	4月14日
	ふじ	4月3日	3月29日	3月31日	4月13日	4月10日	4月12日
オウトウ	佐藤錦	4月5日	3月31日	3月31日	—	—	—
ブドウ	巨峰	4月28日	4月19日	4月19日	未	4月25日	4月30日

注) 平年は1981～2010年 (オウトウは1994～2010年、ブドウは1988～2010年) の平均値。

表2 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	4月24日	4月15日	4月18日	4月29日	4月21日	4月27日
	ゆうぞら	4月24日	4月16日	4月18日	4月28日	4月21日	4月27日
ナシ	幸水	4月28日	4月23日	4月25日	5月1日	4月27日	5月2日
	豊水	4月25日	4月19日	4月20日	4月29日	4月24日	4月28日
リンゴ	つがる	5月1日	4月26日	5月1日	未	5月1日	5月7日
	ふじ	5月1日	4月27日	5月1日	未	5月1日	5月5日
オウトウ	佐藤錦	4月25日	4月19日	4月25日	4月29日	4月25日	4月30日

注) 平年は1981～2010年 (オウトウは1994～2010年) の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成24年4月27日発表)より

今後の気温経過は、1週目（4月28日～5月4日）は平年より高い確率が80%、2週目（5月5日～5月11日）は平年並の確率が40%、3～4週目（5月12日～5月25日）は平年並の確率が40%となっています。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底しましょう。また、下草は5 cm程度（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれあり）に刈り込むとともに、空気や土壤が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壤水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実を確保してください。

果樹の凍霜害対策のための温度指標

果樹の凍霜害対策のための生育ステージ別温度指標を、農業総合センター果樹研究所ホームページに掲載していますので、参照してください。アドレスは以下のとおりです。

<http://www.pref.fukushima.jp/kajyu-shiken/homepage.htm> で、メニューの「技術資料」をクリックしてください。

果樹の現在の生育ステージ

農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の果樹類の生育ステージを、農業振興課・農林地再生対策室ホームページに掲載していますので、参照してください。アドレスは以下のとおりです。

http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=11224 で、トピックスから「果樹の現在の生育ステージ」をクリックしてください。

(2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行ってください。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数で調整してください。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用してください。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ黒星病、うどんこ病

黒星病およびうどんこ病は、開花期前後が重点防除時期に当たるため、落花直後にE B I 剤（県病虫害防除指針参照）を散布しましょう。

なお、落花直後の散布は開花直前の散布から2週間以上間隔があかないよう注意し、満開から5日程度を目安に実施しましょう。

うどんこ病の被害葉叢は見つけしだいせん除し、適切に処分してください。

イ モモ灰星病

花腐れは本病の果実への重要な伝染源となるので、見つけしだい摘除し、適切に処分してください。

ウ モモせん孔細菌病

前年秋期の新梢葉での発病葉率は平年よりやや高く（県病虫害防除所調べ）、春型枝病斑の発生も多いと考えられます。

初期発生を抑えることが重要であるため、特に5月（落花直後および落花10日後）の防除を徹底しましょう。

また、枝病斑は葉や果実への伝染源となるので見つけしだいせん除し、適切に処分してください。

エ ナシ黒星病

腋花芽のりん片調査では、発生ほ場率は平年並であるものの、中通りで発生程度がやや高い傾向でした（県病虫害防除所調べ）。

現在、本病の重要防除時期であるため、開花後の薬剤防除は開花前の防除から10日以上あかないよう注意して散布してください。開花前後の散布期間が2週間程度あいてしまう場合、落花後の防除は落花を待たずに受粉が十分に行われた後、満開5日後頃に行ってください。

また、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけしだい必ず除去しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

今後、気温が平年並みに推移した場合、第1世代の防除適期は5月3日頃と予測されます。初期発生を抑えるため、落花10日後の防除を徹底しましょう。

イ ハマキムシ類

今後、気温が平年並みに推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月5半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予想されます。

複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類越冬世代成虫の発生前である5月3半旬頃までに設置しましょう。

ウ その他鱗翅目害虫

ナシヒメシクイの防除適期は、5月1半旬～2半旬と推察されます。ミツバチ等を導入している園では、巣箱を回収後、速やかに防除を行ってください。

エ リンゴハダニ

今後、気温が平年並みに推移した場合、リンゴハダニのふ化盛期は5月1半旬頃と予測されます。

越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

オ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬世代成虫による加害は、果実がごく小さいうちから発生する場合があります。特に、山間部や山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合は速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定

（演算方法は三角法・平成24年5月1日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	—	5月3日	5月19日	5月31日
平年並み	—	5月3日	5月22日	6月5日
2℃低い	—	5月5日	5月29日	6月14日

起算日：3月1日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。